

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391600133		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム 向の山		
所在地	名古屋市天白区向が丘三丁目1710番		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hohoemi33.co.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成25年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は「外出」「男の生きがい介護」のをテーマとして掲げ、開設当初から現在まで最も力を入れて取り組んでいます。この2つの取り組みを軸として、施設に入ってもその人らしい馴染みの生活が送れるよう支援をさせて頂いています。
 「外出」では、季節ごとのレクリエーションで名古屋港水族館やなばなの里へ出かけたり、個に焦点を当てた“小旅行”で昔よく通った五平餅屋さんへ行ったり、日々の生活の中で散歩・買い物・近所の喫茶店へ行ったりと、入居者様・ご家族様の希望に合わせ様々な形の支援をしています。日曜日には“全員外出”と題し、全員で出かけ、フロアが空になることもあります。
 「男の生きがい介護」と称した「井戸掘り」や「畑仕事」はどちらも地域の方と協力しながら取り組んでおり、当事業所と地域との交流のきっかけの一つとなっています。夢中になって草取りをされる姿や収穫した野菜を調理される姿は、当事業所の“普段の様子”となっており、入居者様に充実感・達成感を味わう事で生きがいや喜びを感じて頂けるよう支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

こども110番の家、朝市の開催など地域との連携が強く、ボランティアを始め事業所に気軽に出入りができる関係となっている。『男の生きがい介護』をテーマに井戸掘りや庭造りなど利用者が、地域の人と協力しながら楽しく生活できるように工夫している。また、外出の機会も多く日々の買い物や個別の小旅行など利用者・家族・職員一丸となり企画をして実践している。職員教育の充実により、職員は向上心が高く、自らの考えをしっかりと持って行動し、スキルアップや気付きを大切にケアに従事している。利用者・家族・地域・職員が一つの輪となり介護だけではなく笑顔あふれる生活の場となる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・理念を『あなたのままで、そのまま』と定め、『利用者本人』『家族』『地域の方』『施設の職員』などの人々が一丸となり、入居者がその人らしい生活の継続をしていけるような関係づくり・環境づくりを目指している。 ・誰でもすぐに分かるように開設時より玄関に掲げ、入社時の研修や定期的なミーティングでも共有し、理解を深めている。 ・朝礼、夕礼で会社の理念を声に出して読み上げたり、エピソードを共有している。 	<p>理念及び行動指針を設けており、それを基に職員は自ら考え行動をしている。また、ミーティングなどを通し常に情報を共有し、職員が行動目標などを発表することで意識付けする機会を持っている。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者と買い物や喫茶店に行く事で、お店の方と顔なじみになっている。 ・季節レクリエーションの際、地域の方にご協力を頂き交流を図っている。 ・こども110番の家になっており、地域の一員としてこどもを見守っている。 ・親子がふらっと立ち寄りオムツ交換をされる等、困ったときに頼れる地域の拠点となっている。 ・他事業所との繋がりを持ち、相互の情報交換でより良い事業所を目指している。 	<p>こども110番の家になっており、土日には近所の子供が遊びに来たりする。また、近所の人と利用者との交流があり、地域と施設との良好な関係が構築されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所前の掲示板にて、相談窓口を掲示している。 ・HPのブログで認知症の方との関わり方や日々の様子を記事として取り上げ、広く地域の方に伝えている。 ・積極的に外出をすることで、認知症ケアの実際を地域の方に見て感じてもらっている。その際、地域の方の相談にのったり、認知症の知識について伝えている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、事業所の活動報告を行っている。参加していただいている(地域の方・福祉関係者・ご家族様など)方から、事業所の運営などに対する意見を頂き、参考にしている。 ・朝市の運営について相談し、意見を頂いている。 ・井戸掘りを地域の方も応援して下さっている。 	<p>小規模多機能と合同で行っており、参加率も高く意見交換が活発に行われている。朝市の開催や災害対策の一環としての井戸掘りなどについての情報交換や運営の相談など、会議を活かした取り組みが随所にみられている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・天白区職員へ、地域運営推進会議への参加を依頼すると同時に、情報の共有を行いながら協力関係を築いている。 ・名古屋市主催の講習会に参加し、得た知識を施設内で共有している。	担当者と情報交換や共有などの交流が密に行われ良好な関係にある。また、役所の担当者から現場に関する相談を受けたりするなどの協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入社時の研修の中で「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」について学ぶ機会を設けている。 ・年次計画に入れて、全体ミーティングで学ぶ機会を設けることで、現場スタッフにも意識してもらうように努めている。入社時研修での内容よりもさらに実際の場面に即した勉強会となっており、改めて介護の質を見直す良い機会となっている。 ・必要な方も、常に拘束しない方法を見出せるように週に1回のミーティングで検討している。	職員は身体拘束に関する研修を実施して拘束に対する知識や理解を深めている。また、疑問に感じる事はミーティングなどを通して話し合い、情報を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入社時研修において、「虐待防止」社内研修プログラムを組み入れスタッフの参加をしている。 ・年次計画に入れ、全体ミーティングで学ぶ機会を設ける事で現場スタッフにも意識してもらうように努めている。入社時研修での内容よりもさらに実際の場面に即した勉強会となっており、改めて介護の質を見直す良い機会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・当社において、成年後見制度を利用している人がいるため、ミーティングで話し合い、勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、契約書関係の読み合わせを行い、細部まで納得して不安なく利用ができるように2時間程度、丁寧な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に「来訪者box」を置き、意見を頂けるようにしている。 ・カンファレンスを通じ、ご家族からの聞き取りを行っている。 ・ご家族に「社長直行便」を記入して頂いたり、日頃のコミュニケーションの中で出た意見、不満、苦情については、ミーティングにて話し合い反映している。 ・ご家族に通院介助やオムツ等必要物品購入を積極的に協力して頂き、それによる来所がスタッフと情報交換を行う良い機会となっている。 ・季節レクリエーションで行き先や内容等ご家族の意見を反映させている。 	<p>家族への手紙や訪問時の対応、来所者boxなど意見交換しやすい環境作りがされている。家族の希望により、誕生日会の場所の提供や遠方から来る家族が泊まれるように手配するなどの対応をしている。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・各ミーティングでスタッフの意見をまとめ、スタッフの意見について協議をしている。 ・全スタッフの意見を聞き取り、運営方針を決定している。 ・月に2回(1回1時間程度)の面談の時間を設け、スタッフが直接管理者と話ができる機会を設けている。 ・管理者はフロアリーダーと話す時間を週1度設けている。 	<p>個々の目標に対しての面談やミーティングの機会を設け、職員と管理者が直接話ができる環境が整っている。また、職員はミーティングなどを通じ、スキルアップやモチベーションアップにつなげている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・6か月に1度個人面談を行っている。その際、自己目標を個人で設定し、前回の面談時の実績を評価し向上心が持てるようにしている。 ・面談実施者は、研修を受け、面談技術向上のため勉強をして面談に臨んでいる。 ・月に2回1時間程度、管理者と介護職員の交流の場を時間を設けている。その中で、仕事の把握や、悩み相談を受けながらコミュニケーションを図り、職員が前向きに取り組めるように働きかけている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが自発的に研修を受講できるように「研修受講届」の用紙がある。また、受講内容などに対して会社が補助してくれる仕組みになっている。 ・法人外での研修情報をスタッフに回覧板で回し、参加を促している。 ・随時職員のスキルアップのための研修を行っている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーの勉強会などに積極的に参加をしている。 ・地域包括支援センターに情報を提供し、情報を共有している。 ・研修で他施設の見学を行い、情報交換や職員との交流を図っている。 ・グループ内で他施設間交流として各施設・事業所の良い点や改善点を見つけて報告し合い、課題については改善するよう検討している。 		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居相談、見学、問い合わせがあった時から、不安や希望、悩みなどを聞く。実際に会う機会をできる限り設け、些細な事にも納得できるよう努めている。 ・入居希望者がいつでも安心して見学ができるよう、対応者だけでなくフロアスタッフにも接遇や簡単な案内ができるような体制をとっている。 ・相談や問い合わせに対し、統一した対応方法をとれるようにマニュアルに落としている。また、直接来られた方のためにパンフレットを常に用意している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談、問い合わせの段階から家族等の話の傾聴に努め、家族のニーズを引出した上で関係づくりに配慮している。 ・生活状態やご本人の求めている事柄を理解し、不安の軽減に努めるように心掛けている。 ・契約対応者だけでなく現場スタッフも積極的にコミュニケーションを図り、相談し易い雰囲気を作って安心して利用できるように配慮している。 ・すぐになじめるよう新規入居者との距離感を大切にし、情報共有している。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容を中立的に吟味し、その人にとって最も必要と考えられるサービスについて、家族と共に模索し、それに伴う情報の提供を心掛けている。当施設以外のサービスが、ご本人様・ご家族様にとって、必要な場合は、その他のサービス利用が行えるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の「できること」「できないこと」を観察メモによって判断し、出来ることに関して相互に協力しながら生活できるよう環境設定を行っている。観察メモは月に1度ミーティングで評価し合い、変化する入居者の状態把握に努め、支援方法を見直すきっかけとなっている。 ・日頃より洗濯・炊事・掃除など家事を積極的に入居者に行って頂いている。 ・年4回のレクリエーションでは、入居者のやりたいことや食べたいものを聞き取り、企画内容を決めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションはご家族にも聞き取りを行い、参加し易い企画にしている。 ・月1回ほほえみ便りに当月の入居者の写真を添付し、最近の体調やご本人の様子を報告を行っている。また、電話やメール等ご家族に合わせた方法で随時報告し、本人を共に支える協力関係を構築している。 ・小旅行にご理解頂き、入居者と共に参加して頂いている。 ・来所された際は最近の様子をお伝えし、ご家族の話もお伺いしている。また、食事をご一緒に頂き食事内容やADLを実際に見て把握して頂ける様努めている。 		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの生活の重要性を契約前に説明し、事前にご家族様・ご本人様から丁寧に聞き取っている。また生活の中でも、折にふれご本人の馴染みを聞きだしている。 ・馴染みの習い事・特技・趣味などあれば、継続ができる環境を整え、生活の一環として取り入れている。 ・小旅行や4大レクの企画の際には、なじみを聞き出している。 ・地域に住む入居前の友人や、親戚が訪ねて来られる。 	居室の入口に思い出の品をレイアウトしたり、これまで継続していた習い事や趣味が続けられるよう地域のボランティアの協力を得ながら環境を整えている。また、希望に沿いお墓参りなどへ行き、馴染みが途絶えない工夫や新たな馴染みの場所(喫茶店や神社など)の提供などを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週フロアミーティングで、個人に焦点を合わせ人間関係等いかに響き合わせる事ができるか話し合う場を設け、改善に取り組んでいる。 ・朝昼夕の申し送りで、当日の利用者の心身の状況を共有し、タイムリーな人間関係の調整を行っている。 ・全員で外出する機会を設け、様々な場面設定での関わりを築ききっかけづくりをしている。 ・必要に応じて相性に合った席替えを行い、トラブル発生防止の工夫をしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・現在までに2名利用終了となった方がいる。ご家族に対し、入居者の写真やアルバムをお渡ししたり、施設での会話や生活の様子をお伝えする等の配慮をしている。 ・以前利用されていた入居者の命日に、旦那様がお花やお供え物をすることができるような支援を行っている。 ・利用中止となったご家族がボランティアとして来所して下さっている。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のケアについて、ケアプランの評価を参考にしながら半年に1回程度、フロアミーティングで話し合いを行い、支援方法の見直し改善するようにしている。 ・観察メモを使用し、入居者の思いや状態の把握に努めている。 ・半年に1回のカンファレンスでご家族の想いを聞きとり、施設側の報告を行った上でケアの方向性を検討している。その内容を議事録として現場に伝達し、現場でも実際の介護に活かせるよう話し合いを行っている。 ・状態変化が大きい方は個人ノートで細かな情報共有に努めている。 	職員は気づいたことや本人の様子、つぶやき等を職員の誰が見てもわかるように絵入りにしたり工夫して観察メモを作成し、思いや意向の把握に利用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・観察メモを用い、その人の馴染みの環境を全員が把握できるように努めている。 ・ご家族様・ご本人様の会話で、折にふれ、馴染みの暮らし方を聞くように心掛けている。 ・レクリエーションを企画する際には、それぞれの経験や馴染みの聞き取りを行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・観察メモを用い、ご本人の「できないこと」「できること」「わからない事」「わかる事」を観察し、日々把握できるように努めている。 ・上記の内容を、フロアミーティングや全体ミーティングにて話し合いスタッフに情報の伝達と話し合いを設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・カンファレンスを定期的または必要時に行う事でご本人・ご家族・介護士・ケアマネ・管理者等が参加し現状に即したプランの立案を行っている。 ・カンファレンスでご家族に伝えたい事や最近気になっている事を事前にフロア職員から聞き取り、実際に決まった課題やケアの内容について議事録や会議で現場へ情報共有している。また、ケアプランは医療ノートも随時参照し反映させている。 ・主治医意見書の入った介護保険証更新認定調査の写しを全て区役所で取り、正しい情報取得に努めている。	利用者本人の思いや意向を反映させ、主治医からの意見や情報も反映した計画書を作成している。見直しは半年ごとあるいは変化時に行なっている。観察メモは見直し時に有効に活用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・観察メモを用い、個々の入居者に焦点を当てている。また、観察メモの掲示により、他スタッフへ情報共有ができるようになっている。 ・ミーティングで個別ケアの情報を共有し、介護記録③を使いケアプランのモニタリングも行っている。それがケアプランの変更・見直しの情報源にもなっている。 ・フロアミーティングでそれぞれの利用者に対し個別のケアを検討し、実践の様子や実践後の変化を話し合い、よりよいケアの提供ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日の午後、近くの耳鼻科に通いたい」など入居者の個々のニーズを捉え、通院の介助を行っている。 ・〇〇が欲しいという希望があれば、買い物にお誘いし、ご本人が直接選んで購入できる様に支援している。 ・なじみの“五平もち屋さん”の話題があがり、行きたいとのご本人の希望により小旅行として実際にそのお店に行くなど、ニーズに対して柔軟に対応している。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・通院の際の送迎を行っている。 ・地域行事である消防訓練や、夏祭りに参加している。また、地域包括支援センターにボランティアの募集などを呼び掛け、積極的に交流を図ろうとしている。 ・近所の喫茶店やスーパー等に通い、店員の方が見守りをして下さったり、話かけて下さったりしている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受け入れられるようにご家族と協力している。 ・新しく病院にかかる際にはホームDrとの相談の下、いくつかご家族に提案し、希望された場所へ行って頂いている。 ・いつでもホームDrと何らかの形で連絡がとれるような体勢ができています。 ・ご家族が希望される歯科の受診や針治療を行っている。 	協力医以外の整形外科、皮膚科、近所の医療機関や訪問マッサージ、看護師とも連携がとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・協力医療機関のDrが2週に1度、看護師が週に1度来所し、入居者の状態の把握に努めている。職員は入居者の日々の体調面の状態を記録に残しており、気づいたことがあればすぐに連絡、相談を行っている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、地域の病院とのケースワーカーと頻りに情報交換を行っている。入院をした際には、窓口の確認・情報交換・今後の相談を円滑に行い、速やかな退院支援に結び付けている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況に応じて、医師を交えながら、ご家族様と重度化に伴う支援の方針を話し合うような方針を契約時にご家族と話しあっている。 ・重度化・終末期に対する対応指針を定めている。 	入社時に「死生観を持ちましょう」と職員に話している。看取りについては、時期が来たらカンファレンスで全員が了承できるよう話し合う事としている。職員は自分が今できる事を、悔いの残らないようにこの思いで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・「応急手当マニュアル」「『緊急時の対応』のマニュアル」を事務所に備えている。 ・フロアミーティング内で、急変時の対応について話し合いを設け、技術の向上に取り組んでいる。 ・全体ミーティングで年次研修計画を立案し介護に従事しているスタッフに意識をしてもらえるように、学ぶ機会を設けている。 ・急変を想定した対応の話し合いを行うことで、全員が一定の対応方法を理解できるように取り組んでいる。 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時マニュアルに沿って緊急時には行動するようにしている。 ・全体ミーティングで年次研修計画を立案し、現場スタッフに意識をしてもらえるように、学ぶ機会を設けている。 ・防災訓練に参加し、参加できなかったスタッフにも、ミーティングで伝達している。 	ホームの訓練以外に学区の訓練に参加している。地域の消防団の団長から直接アドバイスを聞くことができている。3日分の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、個人情報の利用に関しての同意書に承諾を頂いている。 ・スタッフは、入社時、個人情報とプライバシーの重要性を説明し、誓約書に承諾をしている。 ・ミーティングで年次研修計画に沿って介護に従事しているスタッフに意識をしてもらえるように、学ぶ機会を設けている。「なぜそうするのか」という根拠を理解し支援できるような内容の勉強会にしている。 	プライバシーに関しては、ミーティングで随時話し合い職員の意識を高めている。また、プライバシーに関する貼り紙を見て、常に頭に入れておけるように努めている。研修の機会を設け、利用者本人の気持ちを考えた支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を行う時には、聞き取りを行い、本人の希望を踏まえた行事になるように心掛けている。 ・意思表示が困難な入居者には「はい」「いいえ」で答えられる質問を用いる、写真を見せ選択して頂くなど工夫し、少しでも自己決定ができるように心掛けている。 ・日々の中で献立や外出先等の希望を聞き、食事の調味料を選んで頂いたり、外出先で食べたいものを選んで頂くなどの支援をしている。 ・週単位のフロア目標で「選択肢を増やす」という目標を立て取り組んだ。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の前の聞き取りにおいて、ご本人の今までの生活パターンの把握を行うようにしている。 ・基本的な1日の流れはあるが、その人の思いや、状態に配慮しながら、柔軟に対応している。 ・「今から入浴したい」「散歩したい」等、ご本人からの訴えがあれば、安全を配慮しながら実現できるよう支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問美容師とご本人様とで直接パーマやカラーの相談を行い、本人の望む理美容を行っている。 ・朝夕、入浴後の着替えの際には、何を着たいか聞き、本人の意思を尊重している。 ・入居者の希望を聞きながら、週に1度は爪切り・耳掃除を行っている。 ・外出の際には、女性入居者にメイクや服選び等して頂き、普段とは違う刺激を感じて頂けるよう支援している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・献立決め、買い物、調理、片づけの一連を入居者と共に行い、調理参加が困難な方には味見等何らかの形で参加して頂き、個人に合わせた支援を行っている。 ・色合い、個人に合った大きさ硬さを工夫し、楽しんで食事出来るようにしている。 ・気分転換も兼ねて時折外食し、好きな物を選んで食べて頂いている。 ・季節感のあるなじみの料理を基本にすることで、食事に関する話を聞き出すなどの会話も含めて楽しんで頂いている。 ・昔から親しんでいる食器や調理法を配慮して取り入れている。 	<p>利用者に希望を聞いたり、意思表示が難しい人には料理の本と一緒にしながらメニューを決めている。1日30品目、旬の食材を摂取できるように献立を工夫している。ホームの畑で獲れた芋や大根、きゅうりなどその時々々の季節の野菜を食材として利用することもある。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取量、食事摂取量を記録している。 ・月に1回体重を量り、食事量と体重の増減を併せて把握している。 ・1日30品目を摂取できるような献立を心掛けている。 ・水分摂取が困難な方に対しては、ストローや楽のみを使用したり、お茶だけでなくジュースやコーヒー等その方の好みを把握し、どのくらい摂取して頂けたか記録に残すなど工夫している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きの大切さを入居者へ説明し、毎食後の歯磨きが習慣になるように支援している。 ・入居者の状況に合わせ、見守りや一部介助、全介助、液体ハミガキの活用などの支援を使い分け、確実に口腔ケアが出来るように支援している。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表を用いて定期的にトイレ誘導を行い、排泄リズムやパターンを把握している。実際にパットの使用量が減ったとご家族からも言葉を頂いている。 ・フロアミーティングにて、その人その人にあった支援が出来るように排泄についてもスタッフで話し合っている。 ・トイレ介助の拒否が強い方には、観察メモに声かけの成功例を記入するようにし、気分よくトイレでの排泄ができるように情報共有を行っている。 	<p>一人ひとりの力や排泄のパターンを把握し、声かけ、または一部介助しながらトイレでの排泄に努めている。声かけにも羞恥心に配慮して対応している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩等、日中の活動量を増やし便秘解消につなげている。 ・ヨーグルトや牛乳を食事メニューに取り入れることによって便秘の軽減を図っている。 ・便秘の方にはヤクルトを随時飲んで頂いている。 ・食材のバランスを考え、たんぱく質と共に野菜・食物繊維の多いもの等を摂り入れるように心がけている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日入浴がしたい時間帯などの聞き取りを行い、出来る限り希望にそった時間帯に入浴が出来るように支援している。 ・入浴中に音楽を流したり、入浴剤を使ったり等、入居者の希望に合わせて楽しさを増やしている。 ・入浴時には1対1でのコミュニケーションを大切に、信頼関係を構築した上で介助するように心がけている。 	利用者の希望に合わせ支援している。入浴の声掛けはタイミングや利用者の気分を察しながら行なっている。利用者の体調によって入浴できない時には、清拭や足浴の対応を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始前に馴染みの就寝について聞き取りを行っている。 ・就寝時はダウンライトを使用し、照明加減を入居者に確認している。 ・入居者が寝付けない時には事務所でお話をするなど、気持ちに配慮した支援に心掛けている。 ・夜間の1回の排泄量を考慮し、ご家族との相談しながら夜間のパットの種類を決め、良眠を促す事が出来るようにしている。 ・週に1度シーツ交換、布団干しを行い、清潔な環境で良眠できるようにしている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬情を個人ファイルに保管し、必要時に確認し易いよう配慮している。 ・「薬の知識」という本を用いて、入居者が服薬している薬の勉強を行いスタッフの知識を向上させている。 ・個々人の症状に合わせ、必要時にはDrや薬剤師に相談しながら、服薬し易い方法を工夫している。 ・BC表に薬の欄を設け、誰でも確実な服薬支援ができるようにしている。 ・薬の変更があれば、開始時期と状態の変化を必ず医療ノートに記入している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとに、入居者の喜びや楽しみ、なじみなどの聞き取りを行い企画している。夏は入居者の希望により名古屋港水族館へ行き、秋にはご家族、入居者と相談しながら「一泊旅行」を企画中。 ・農作業がなじみの入居者に庭の草むしりや水撒きをお願いしている。また、それぞれに掃除、食器洗い、ゴミ捨て等の役割をお願いし手伝って頂いている。 ・気分転換の為に外出支援に力を入れており、外出先も入居者に選んで頂いている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物や喫茶店への外出支援を日常的に行っている。気分に応じて、馴染みの店以外にも足を延ばし気分転換を図っている。 ・小旅行を企画し、なじみの場所や入居者の行きたい場所へ行けるよう、ご家族と協力しながら外出を行っている。今年に入居者の希望でイタリアンを食べに行ったり、五平餅やうなぎを食べに行っている。 	利用者の習慣や希望を考慮し、外出を楽しめるよう支援している。「日曜日は外出しよう」と毎週日曜日を外出デーとして、利用者の「行きたい」「したい」を叶えるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に財布を持っている。管理の難しい方には、事務所にて管理を行っている。支払は、自分でできるように環境を整えている。 ・施設の中でも、お金を使える環境があり、希望に応じて支払いを支援している。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・フロアに電話を置き、いつでも入居者が使えるようにしている。 ・施設の電話を利用する時は、会話が他の入居者に聞こえない場所(個室など)で利用できるようコードレス電話機など設置し配慮している。 ・ご家族から定期的に届く手紙をお渡ししている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・フロアの中心に台所があり、入居者が使いやすい工夫をしている。 ・玄関、フロアには、季節感を取り入れたディスプレイを行っている。 ・照明も、ダイルームには暖色系の照明を設備し、環境を整えている。 ・庭に面した縁側を有効活用する事で、季節の移ろいや日々の変化を感じながらお茶を飲む等、皆で楽しめる空間となっている。 ・トイレのごみ箱は小さ目の物を使用して頻繁に取り換えることで、不快な臭いが広がらないように配慮している。また、匂い取りを使用したり、香りのよい柔軟剤を使用し、生活空間の匂いを大切にしている。 	リビング中央には畳・掘りゴタツがあり、利用者が寛ぐことができる。また床の間もあり掛け軸や置物が置かれ、懐かしさを感じさせる。台所の高さは利用者に合わせている。縁側では日向ぼっこをしたり、庭を眺めたりのんびり過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族控室など自由に使える空間が保たれており、個々に居心地のいい空間で過ごすことができるようになっている。 ・玄関先やデッキにベンチを設置することで、フロア以外でもくつろいだり、仲間同士で話せる環境を整えている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に、馴染みの道具(家具や寝具など)を持ってきてもらえるようにご家族に協力を依頼している。 ・思い出ボックスに馴染みの写真や作品を飾り自分の居心地を良くできるように環境を整えている。 	家族の写真を飾ったり、思い出のある品を持ち込んでいる。食後に居室で休息を取ったり、個人で取っている新聞を自室で読んだりして寛ぐ利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者のなじみの環境(まわすタイプの蛇口・障子など)を設置することで利用者の道具に対するの混乱をさけ、「分かること」「出来ること」が増える環境を整えました。 ・掘りごたつに座る、立つの動作を日常的に行うことで、残存能力を活かせるようにしている。 		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2391600133
事業所名	グループホーム向の山

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	地域行事に利用者と共に参加している。こども110番の家になっており土日には近所の子供が訪れたり、近隣からボランティアを募ったりして地域との連携が強い。『男の生きがい介護』では近所の人との協力を得て、井戸掘りや庭造りなどを行ない交流を深めている。また、朝市の開催など地域貢献にも力を入れている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	小規模多機能と合同で年6回開催し、地域の方、福祉関係者、家族など参加率も高い。積極的な意見交換を通し情報の共有化を図っている。また、朝市の開催や井戸掘りなどの企画を多岐にわたり実施しており、利用者の生活や運営、地域連携に反映されている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	担当者との情報交換が密にされており協力関係が構築されている。地域のイベントや市主催の講習会などにも積極的に参加している。また、担当者から介護現場について相談を受けるなど信頼関係も築けている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	来訪者boxや社長直便の設置など家族が気軽に意見や要望が言える環境が工夫されている。また、記念日をお祝いするための場所を提供したり、遠方からの家族が泊まれるように手配したりと、家族の意見や要望を実現できるような取り組みもしている。利用者の様子は毎月送られる「ほほえみ便り」で確認ができる。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	○	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。